

インプレスが6月に発表した「インターネット白書2004」によれば、無線LANスポットの利用経験者は、2003年の11.6%から18.6%（2004年2月時点）へと伸びた。そしてさらに普及させるには、インフラ整備が必要と分析している。現在、国内の無線LANスポット数は、5000余りといわれる。しかし、都心など、ある場所には集中しているが、どこへ行っても無線LANスポットがあるという状況にはほど遠い。

そんな中、ホーキングとタケシヨウ、IRIコムユニケーションズの3社は5月31日、飲料自販機をインターネット接続可能な無線LANスポットとする新規事業の推進に合意したとの興味深い発表をした。

ホーキングが自販機の維持・管理とサービス運営、タケシヨウが自販機の設置および営業、そしてIRIコムユニケーションズがネットワークの設計・構築・運営を行う。

7月から約3か月間、名古屋地区で実証実験を行い、2005年5月（愛知万博期間中）をめどに全国展開5000台、その後5か年計画で10万か所を目指す。

なぜ自販機なのか？ 実は、現在国内には清涼飲料水の自販機だけで260万台あるという。業界では既に限界に達したとの見方もあり、生き残りをかけ何らかの付加価値が必要という背景がある。

「自販機の設置場所、つまりロケーション獲得では集客が期待できるロケーションほど、競争は厳しい。無線LANスポット機能などを付加価値とすることで、獲得を有利に進めることができる」（ホーキング プロデューサー）

自販機に回線を引き込むことで、

自販機で ネット接続

デジタル千里眼 **トピック**

飲料自販機を無線LANスポットに 実験開始、5年で10万か所目指す



名称は「フリーモバイル」。写真左側は、ルーターなどの機器は機内にも収納。実証実験用のもので、右側に機器を設置する

オンラインによる在庫管理もできる。自販機業界では、この秋、液晶ディスプレイ（10〜12インチ程度）付き自販機の投入も予定しており、この画面にネット経由で、その地域に密着した情報を流すなどのプランも検討されている。

課題は回線の引き込み

無線LANの規格は、「IEEE 802.11b」をベースとして、「11g」を留意することも考えられるという。セキュリティでは、「WEPキー」「ESS-ID」など、最低限の機能は盛り込む。さらに、プロバイダーに関しては、極力中立

の立場で、可能な限り多くの業者と提携していきたいとのことだ。「この事業を推進していく上で課題は、二つあります。各プロバイダーさんとやっつけていく場合のローミングと、設置場所にとり回線を引き込むかの交渉ですね。どちらもこれから検討していく必要があります」（IRIコムユニケーションズ担当者）

自販機を駅構内に設置すること自体は困難ではないが、回線を引き込む際、例えばIRIは日本テレコムが強いなどのすみ分けがあり、そこでの交渉が必要となるのだという。

現在、設置場所は、病院、スーパーの入り口付近、オフィスビル喫煙コーナーなどが候補に挙がっている。

以前、某IT系担当者の講演で、「マクドナルドの店舗数があれば、どこの町に行っても無線LANスポットがあると感ずけるのでは」というコメントを聞いたことがある。全世界のマクドナルドの店舗数は3万以上。日本では、コンビニのセブンイレブンが1万強の店舗数。それを考えると、5か年計画で10万か所は心強い数字で、夢も膨らむが、「何もない町はずれの一本道にぼつんとあるような自販機は無理でしょうね（笑）」（IRIコムユニケーションズ担当者）とのことだった。

後藤高志（編集部）



1 無線LANの規格の一つで、最大通信速度は11Mbps。「11g」は54Mbps。

2 無線LAN標準の暗号化設定方式で使われる秘密鍵。

3 アクセスポイントとパソコンの両方同じIDでグループ化するセキュリティ一的方式。

4 契約しているプロバイダーのサービスを、そのほかの通信事業者の設備でも受けられるようにすること。